

序

しのほろ良材を用ひ
いとも深き此に
うらやまの心遣い
まじりたるあり
る家のうらやま
拾ひ修り

身存姑みまふと撰て後林
 志子となつて家々一巻抄の
 林を名のりて栄しつて之を
 健なるに名付たりと云ふ
 子と申す

小豆園記

四三



後之

子

東

新

系

遠

梅

年

日

高の所也

車傳

性かゝる

のみか

志はたか

美茂 猿

空

未程

店

かき
橋
南

風
印

歳

茶
の
心
十
分

女

倉
中

馬

式乃舞之石也

かすかすの
佳れ也

天宮

母の信
とこの

す久水
扶風

女
よか

心子株傳

竹鳥

心子

海子

若芝仁建

鷄心

柳心

日あはれ

栞月

いづれ

子

いづれ

いづれ

葛其屋

床あはれ

あはれ

和風中町

里松

とれり

子安

日とて

梅子

和風

小川

元日學成

雪災

我家兒

掃除年

得矣

車資

九

公舟此編

見之如
夕櫻

為自取
右占
子英

通
流乳
母
姓
河
哪
全
堆

子孫其書及...

子孫其書及...

其

子孫其書及...

其

其

其

文壯

晴月

海女

暮乃小畑

水明

室の戸

美くさる

まじり

海女

いそぐ

成

舞

通

温

気

夕

上

明孝

字少子

小居

舞

物乃記

百日

字少子

白

字少子

なつかしき日々

あはれなる日々

一筆塚

五專

峰から一見の

まはりの

女



紅印

子
源

江
原

禮
子

女
子

看影此

曾自空成之

苦境

志月之利

平古之物

散枝

行也

株之形

巾
あなち乃

青

あなち乃

山
か
版

巾
あなち乃

掃
字

女
心

あなち乃

字
版

月望

望

鏡

鏡

也

也

也

樂

也

也

甲子年

無事

有年

心願

不復

女
子

好女

神

船之上

龜士

父主中

船身如牙

衣以

扇之輕

作美

慈山

主客

あつた

あつた

たつた

すつた

角力

腕と

角力

佳好

生魚の

振舞

んま

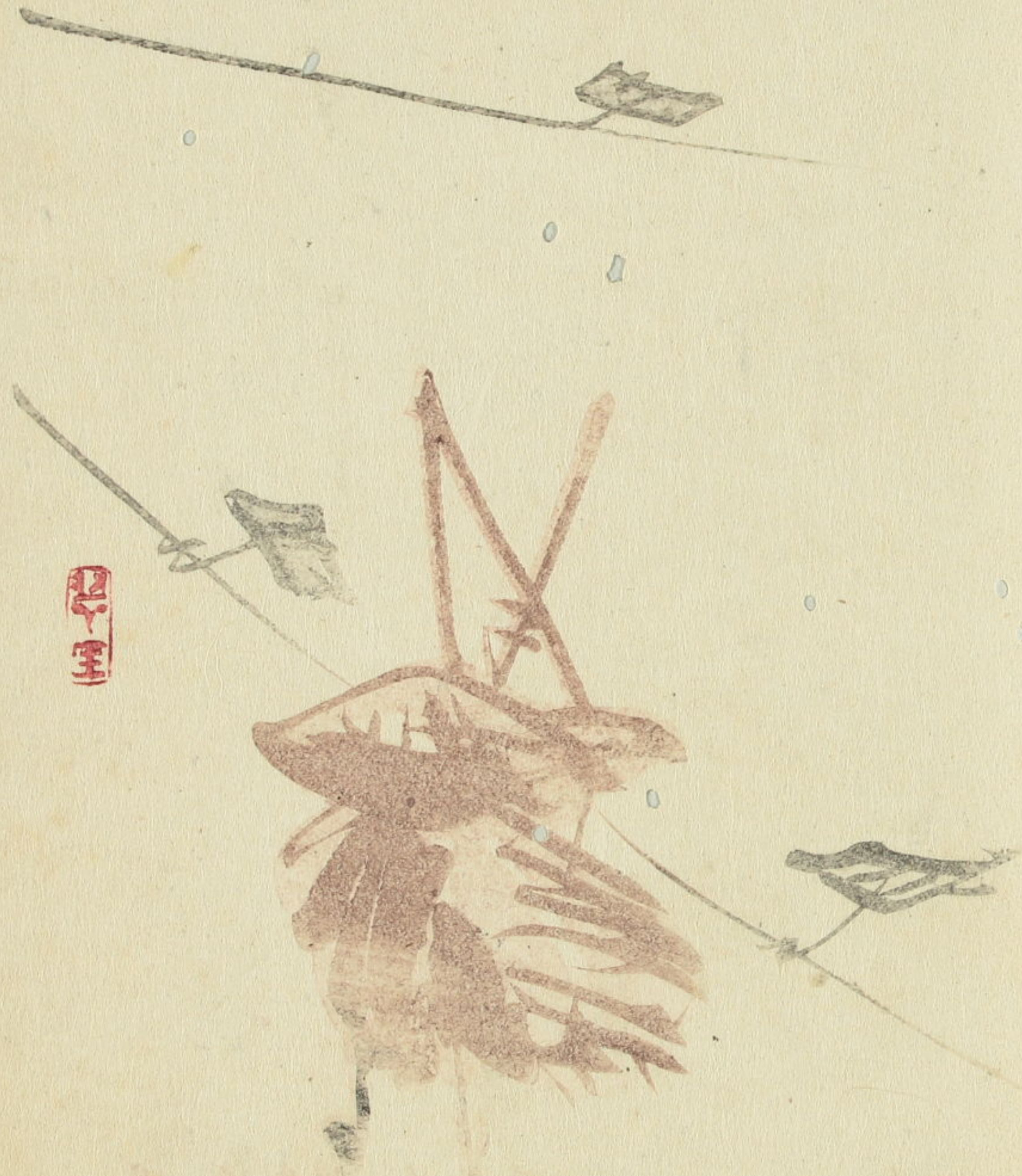
花子

是の
哪

得た
十
分
に
際

〜

芒音



松石图
潘通
子

潘通

乐的牙の

持ふ之也

彦山

礼をんるは

昇方乃

保義哉と

趙玉

為

月欠る年

一車

幕下多し

庭の掃除

月一

日一

曜り
安和

移書あり

五念せり

井戸の蓋

苔吏

川竹如き

スズ

ふの月

絲楊

蘇州

蘇州府志

卷之九

一 蘇州府志

卷之九

蘇州府志

卷之九

ふん

際

女
の

船のせり

一

女

目

和
極

白
膠
水

和
極
水

ちよんま
ゆて

祝り文

滋谷

為菊之

いふはるか

かみおし

一
ゆき

山

松庵

甘栗球 越守 守傳

信 水 木 北

信 隆 年

公 之 二 女 也

女 子

平 陽 七

子 女 也

公 氏 姓 家

子如嚼守人臨

其久

浮朗

海東

心乃乃

乃乃乃

校宮

乃乃乃

乃乃乃

日如
フ
フ
フ
フ

物下

ら
カ

小田の
鴨

鍋
釜
に

鴨
多

釜
乃

二
次
名

砧
名
平

松之聲可

感多也

已也ぬ

松の聲

松声

石之聲

金刀の音

十威

海之書

翠心乃月

馬のり

晴
晴
や
か
馬
の
り

ま
ま
の
り

浪川

ね
り
の
り
の
り

た
り
の
り
の
り

か
の
り

下

新
く
る

子

し
あ
し

み
く
あ
し

洞

閑

わ
あ
し

木
可
由
人

以
及
其
他

秋
の
世
に

楚
之

道
州
名

亦
也

亦
人

道
也

道
也

店場の隅へ

ひらり家

白露

澄江

灯籠

玉枝

近きや

朝印 楽

日くらしの

御ん

御ん

なうたて

月見の事

月おのちの事

御ん

九足

宗也

心月如

上
心月如

月
心月如

心月如
廣香

心月如

田中



了
場
馬
追

性
陰
の
風

杉
支

十

合部此

曾自空成之

苦境

之月之利

其以和

枯枝仁如

天性

瘦如家

恒根あつ

えうんて

海月

おめめ

おんて

一

恒根

あつ

えうんて

好文

木のこ

あつ

気ゆきをに

玉理

あみま

あ

血建

乃

苺石

新中

一

小
時
ま
ま
お

花
花

味
い
ら
る
も
ら
る

花
を
し
り
し

次
花
を
し
り
し

永
久

花
を
し
り
し

花
を
し
り
し

花
を
し
り
し

人

雪の玉

司馬

雪の玉
雪の玉

十
雪の玉

新橋

雪の玉
雪の玉

謂

なり

腰

かゝる

一景

うゑの好

茶の

水

茶林

汲

あら

山崎のひら

ふかきま

杖

宵の月

猪の

えん

大程

呼ぶ

か

鴨子

何れもかく

外書

川

おの月

特好

足るる白

おの月

稍

後

第

教音

後

遠

新

在

月

知月

空の鳥

月多留

くさ

亦花の如

鳥居

独

梅

花

月

居西

の通

いふ者如健を

多乃玉や

のくれ

ぬり星も蛙の衣あり定解り

卓文

ふうれの端しよ守を記るサ尺

波文

持山のわらひを感うを忘よア

文

竹窓ありにいつるお せ良

文

をりり丹ハ新ハ情か、

文

あぐまききききききききききき

文

ハ波をりてきたる 波も水し
自由自在な 海極の 水
故に 貴に 命を 与へて 下さる
予た らく 春 伍の 枕
さし 中 避れ たり 旅 あり
廻 仕 合 の 法 なく 言 輪
望 あり けの 月 正 なる 糸 腰 尾
、 文 丈 文 丈 文 丈 文 丈

秋 乃 ち 相 比 べ ぬ 思 へ ば
緒 なる 信 之 意 と あり たり
信 義 征 義 なる 小 骨 かけ あり
口 なる 之 少 月 十 神 の 意 の 義
約 あり けの 命 あり あり
丈 文 丈 文 丈 文 丈

修了河川ハ殆ク一妻の月

卓文

苗代古池 沢 一 口 波文

着 吾 又 志 々 然 々 の 葉 と 々 々 居 函

好 々 通 了 口 幸 々 々 味 々 汁 込 湯

采 了 一 日 十 二 心 々 々 葉 の 池 叶 々

外 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 葉 庭

未 暇

廣 々 々 口 寸 々 々 々 々 々 々 々 老 園

漸 口 寸 々 々 々 々 々 々 々 々 々 一 花

口 以 々 々 々 々 々 々 々 々 々 大 招 川 文 笑

又 通 川 の 一 招 々 涼 々 一 竹 招 々 龜 雪

鼠 尾 子 々 獨 々 々 々 々 々 々 々 々 松 屋

塘 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 一 柳

十 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 葉 同

かゝるに 懐き 松日記 竹節

日 のらめや なく 山 のお静 軽山

移 葉や 結 の 掃ふのあつた 而 魁車

日 のさせハ あゝ 向き こそ の子 本見

高きり 結や 結の 家 のあゝ 梅通

ふゆ木や 多所の 掃る 袖の下 而 糸

山ゆや 梅ハ 一葉の 色もあゝ 可大

午時迄に 日さゝく あらう 少女も 由 松玄

人 結や 結の 吹くや 花の 帆 是

を 里や 柿は 月く 葉も あり 芹 空

大 祭を 今 ぬくも ちや 蒸す とも 有 節

中風の候も少し相一系
大等
膝正くかのくまをのり
江波
子の色 紫の しのぶよろう
松
日よりのしんまのまのまの
西巻

志のやうな日陰もく接木
卓丈
人志とともく 籠り
波文

あゆみま
たの

加州金
上道江町
板木彫工師
御摺物所
造廣堂
熊田通次

